

コロナと放送教育

コロナ禍が与えたかもしれない影響
(個人的に感じていること)

コロナ以前の放送教育活動

大きな声で、発声練習

顔を突き合わせて、作戦会議

取材活動

コロナの中の活動

大きな声で、発声練習

広いところで発声 → でも怒られる マスクで発声 → 苦しい……

顔を突き合わせて、作戦会議

ソーシャルディスタンス → 心もソーシャルディスタンス？

取材活動

取材対象からの生の声が聞けなくなる……が、**思わぬ副産物**もあり。

思わぬ副産物

スマホ世代の**あたりまえ**発動

「わざわざ行かなくても、スマホでできるじゃん。」

物理的距離のせいか、物おじすることなくスムーズにお話。

音声・映像が思いのほかきれい。

副産物の問題点

許可どり・取材背景への配慮

取材相手の感情を読み取りにくい。

臨場感・リアリティが伝わるのか。

アンドロイドと 아이폰の相性および通話料金

コロナが落ち着いている今

内向きな活動

経験不足

対面で話をする情報の情報量と緊張感



メンタルを鍛える？

コロナが落ち着いている今

各種大会の中止やリモート審査など



スキルの低下・感動がない。

比較対象がないことで、評価・コメントなどすべてにおいて「感動」がない。

生徒が生き生き活動すること

刺激・自分だけの考えから**広い視点へ**・**アクティブな心** etc…

ICTツール → 確実に**選択肢は増えた。**

ICTとの融合・より幅広い活動へ

会場に出向き直接お話しできず、大変申し訳ございませんでした。

リモート発表にご協力いただきました、
総合教育センターの皆様、
教育情報視聴覚部会事務局の先生方、

そして、会場でご清聴いただきました皆様、

発表にお付き合いいただき、ありがとうございました。